

令和7年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ファミリーズ	代表者	横溝聡子	法人・事業所の 特徴	地域密着型介護 小規模多機能居宅介護
事業所名	シニアリビングあかり	管理者	清水勇貴		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	以前は自己評価ができていなかったため今年度から行っていく。	自己評価行う。	自己評価できているのか分からない、知らない。	改めて自己評価表の閲覧を促し、いつでも閲覧可能なことを伝えていく。運営推進会議の議題に入れる。
B. 事業所のしつらえ・環境	来所者には笑顔でハキハキと対応する。音や匂い等環境整備にも留意する。	来所時には職員が必ず対応できている。来所者に不快感を持たれないよう注意している。	入口が分かりにくい。	引き続き来所者が居心地の良い、空間づくりに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	介護相談、お茶会、コンサートなどの広報活動を計画実施していく。	介護相談、お茶会、コンサートなどの広報活動の計画実施ができた。地域の祭り、清掃、町内会にも参加した。	地域との交流をしっかりと図っていこうと努めている。	引き続き地域のイベントには率先して参加し、会社主催のイベントも盛り上げて広報活動行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	暖かくなれば散歩等の余暇活動を行う、地域の店への外食を計画していく。	外食や地域での散歩行えている。	利用者が地域のイベントに参加空出来ていない。	季節や感染予防を考慮し利用者にも参加できるものには参加を検討していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	より多くの地域住民の参加をお願いし地域に知ってもらえるよう努めていく。	郵便局長や商店店主等地域に深い関わりのある方の参加や交流が増えた。	地域の方との交流を深め、運営推進会議への参加者を増やせている。	会議内でいただいた意見を出来るだけはやく形にしていく。

F. 事業所の 防災・災害対策	防災委員会を筆頭に防災意識改革から行っていく。	会社内の定期的な研修の実施はできている。	災害時には頼りになりそうだが、災害時の地域との連携はまだ課題がある。	地域の防災訓練などへの参加、引き続き会社内の研修に参加していく。
--------------------	-------------------------	----------------------	------------------------------------	----------------------------------